

有機農業の取組拡大に向けた 各地の取組事例集

ビジネス実践拠点づくり編

平成30年度オーガニック・エコ農産物安定供給体制構築事業のうち
オーガニックビジネス実践拠点づくり事業



令和元年8月
生産局農業環境対策課

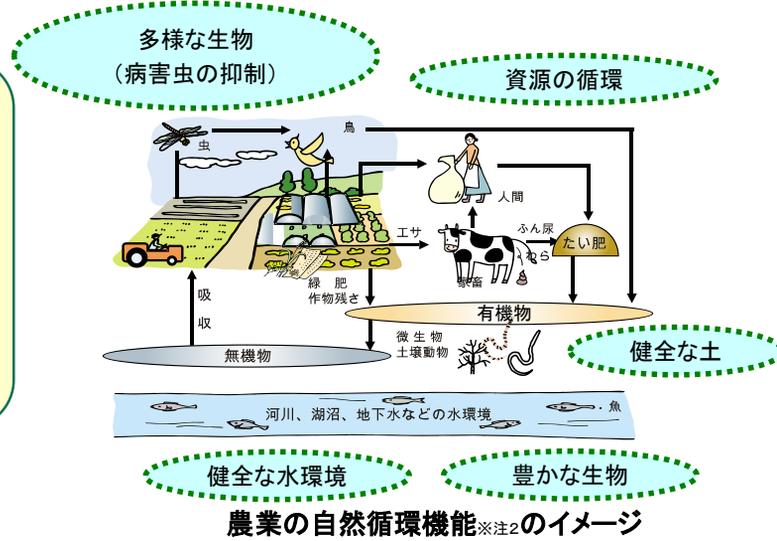
農林水産省

環境保全型農業・有機農業・有機農産物とは

環境保全型農業

環境保全型農業とは、農業の持つ物質循環機能を生かし、生産性との調和などに留意しつつ、土づくり等を通じて化学肥料、農薬の使用等による環境負荷の軽減、さらには農業が有する環境保全機能の向上に配慮した持続的な農業、のことを指します※注1。

※注1:「今後の環境保全型農業に関する検討会」報告書(2008年3月 農林水産省 生産局農産振興課環境保全型農業対策室)による。



有機農業

有機農業は、生物の多様性、生物的循環及び土壌の生物活性等、農業生態系の健全性を促進し強化する全体的な生産管理システムであり、国際的な委員会（コーデックス委員会※注3）が作成した「ガイドライン※注4」に、その「生産の原則」が規定されています。

我が国では、平成18年度に策定された「有機農業推進法※注5」において、有機農業を「化学的に合成された肥料及び農薬を使用しないこと並びに遺伝子組換え技術を利用しないことを基本として、農業生産に由来する環境への負荷をできる限り低減した農業生産の方法を用いて行われる農業をいう。」と定義されています。

※注3:コーデックス委員会とは、消費者の健康の保護、食品の公正な貿易の確保等を目的として、1963年にFAO及びWHOにより設置された国際的な政府間機関。国際食品規格の策定等を行っており、我が国は1966年より加盟。

※注4:有機的に生産される食品の生産、加工、表示及び販売に係るガイドライン(CAC/GL32-1999)

※注5:有機農業の推進に関する法律(平成18年法律第112号)

有機農産物

有機農産物とは、化学的に合成された肥料及び農薬の使用を避けることを基本として、土壌の性質に由来する農地の生産力を発揮させるとともに、農業生産に由来する環境への負荷をできる限り低減した栽培管理方法を採用したほ場において、

- ・ 周辺から使用禁止資材が飛来し又は流入しないように必要な措置を講じていること
- ・ は種又は植付け前2年以上化学肥料や化学合成農薬を使用しないこと
- ・ 組換えDNA技術の利用や放射線照射を行わないこと

など、コーデックス委員会のガイドラインに準拠した「有機農産物の日本農林規格」の基準に従って生産された農産物のことを指します。

この基準に適合した生産が行われていることを第三者機関が検査し、認証された事業者は、「有機JASマーク」を使用し、有機農産物に「有機〇〇」等と表示することができます（逆に、認証を受けていない農産物に「有機〇〇」等の表示を行うことはできません）。



オーガニック・エコ農産物安定供給体制構築事業

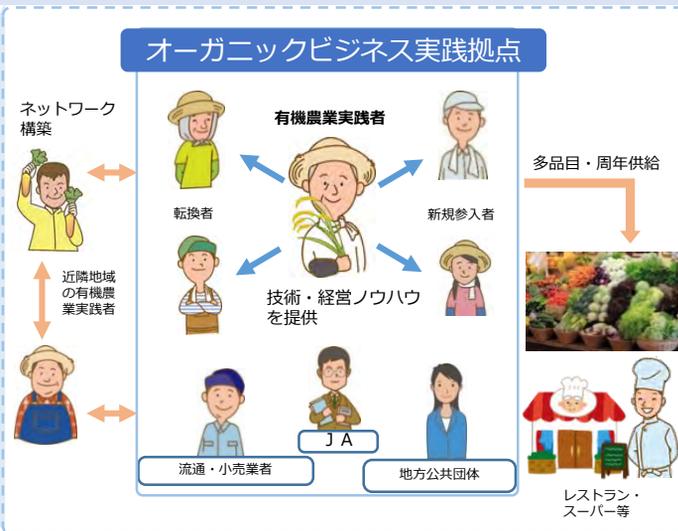
有機農業の面的拡大と有機農業により生産された農産物の安定的な供給体制を構築するため、輸出も視野に入れたマーケットインの発想を基本としたオーガニックビジネスの実践拠点づくりに対する取組を支援しました。

1. オーガニックビジネス実践拠点づくり事業

補助率：定額
事業実施主体：協議会

○ 生産供給拠点の構築

- ①実践拠点を核に新規の有機農業実践者の確保・育成や有機農業者間のネットワークづくりを支援
- ②複数の有機農業実践者による多品目・周年供給体制の構築、実需者との連携強化（定期的な意見交換）を支援
- ③有機農業新規参入者や慣行栽培からの転換者に対する技術講習会の開催や土づくり技術実証（最大2年間）を支援



2. 全国推進事業

補助率：定額
事業実施主体：民間団体等

実践拠点の取組を支援

(1) 生産・実需情報の共有の構築・オーガニックビジネスの実践支援

- オーガニックビジネス実践拠点における販売戦略を企画・提案する「オーガニックプロデューサー」の選定・派遣
- 生産と実需を結び付けるポータルサイトの構築 等



(2) 消費者等の理解増進

- 消費者に対する啓発活動
- 生産者と実需者との商談会の開催 等



(3) 新規就農促進

- 研修受入れ農業者に対する研修会の開催 等



国際認証取得拡大緊急支援事業のうち有機JAS認証等取得等支援事業

※ 国際認証取得拡大緊急支援事業のうち有機JAS認証等取得等支援事業の取組事例は別冊「輸出編」をご覧ください。

EU諸国及び東南アジア諸国等に対する農畜産物・加工食品の輸出拡大に向け、有機JAS認証等の取得等を支援しました。

事業内容

<補助率：定額、1/2>

- 有機JAS認証の取得、輸出向け商談、輸出向け新商品開発、技術講習会の開催、機械等リース等を支援
- GLOBALG.A.P.認証の取得、輸出向け商談等を支援



効果

- 有機同等性の仕組みを利用したEU向け輸出の拡大
- 国内有機農業取組面積の拡大
- 取引先からの要求に応じた、GLOBALG.A.P.認証取得者数の拡大

事業実施主体

協議会等



平成30年度オーガニック・エコ農産物安定供給体制構築事業 のうちオーガニックビジネス実践拠点づくり事業 実施地区一覧

- 1 大空町有機農業推進協議会（北海道）
- 2 豊浦町オーガニック・エコ農産物推進協議会（北海道）
- 3 J Aみどりの有機農業推進協議会（宮城県）
- 4 オガニック農業推進協議会（秋田県）
- 5 小川町有機農業推進協議会（埼玉県）
- 6 千葉県有機農業推進協議会（千葉県）
- 7 自然と共生する里づくり連絡協議会（千葉県）
- 8 湘南オーガニック協議会（神奈川県）
- 9 小田原有機の里づくり協議会（神奈川県）
- 10 とやま有機・エコ農業パワーアップ協議会（富山県）
- 11 知多の恵み協議会（愛知県）
- 12 京都オーガニックアクション協議会（京都府）
- 13 丹波市有機の里づくり推進協議会（兵庫県）
- 14 神戸オーガニック・エコ農業推進協議会（兵庫県）
- 15 那賀地方有機農業推進協議会（和歌山県）
- 16 安来農林振興協議会やすぎ有機農業推進プロジェクト（島根県）



- 17 小松島市生物多样性農業推進協議会（徳島県）
- 18 南島原市有機農業推進協議会（長崎県）
- 19 くまもと有機農業推進協議会（熊本県）
- 20 宮崎県有機農業連絡協議会（宮崎県）
- 21 かごしま有機農業推進協議会（鹿児島県）

大空町有機農業推進協議会（北海道大空町）

協議会の構成員

大空町、東京農業大学オホーツクキャンパス、生産者（22名）、実需者（丸和油脂、おぞら三味（株）、合同会社大地のりんご、女満別産業開発公社、株式会社ウエニシ等）

生産概要（2019年3月）

- 取組面積
有機農業取組面積：40.6ha
うち有機JAS取得面積：37.7ha
- 有機農業者数：11名
- 栽培品目：馬鈴薯、かぼちゃ、飼料作物等
- 有機農産物の生産量：505トン
- 構成員の主な取引先：20箇所
（例：生協、スーパー、郵便局、有機酪農等）

成果（2018年→2019年）

- ・ 有機農業の新規参入者の増加：10名（2018年）→11名（2019年）
- ・ 有機農業面積の拡大：37.9ha（2018年）→40.6ha（2019年）
- ・ 有機農産物の販売額：3800万円（2018年）→4200万円（2019年）

有機加工品開発



有機飼料 収穫風景

取組のポイント（取組期間：2018年～）

- 有機農業への参入者の増加に向けた取組
 - ・ 有機農業現地研修会の開催（東京農業大学名誉教授 吉羽雅昭氏）
 - ・ 実証圃における現地講習会の開催（(株)大地のMEGUMI有機圃場並びに施設）
→ 有機飼料の収穫量が増加
- 流通・販売の拡大に向けた取組
 - ・ 地元企業と協力して有機加工品（規格外の南瓜・馬鈴薯を業務用に冷凍加工）を開発。
 - ・ 販路拡大事業（加工新商品の開発、商談会、イベント等への参加）
→ 有機栽培南瓜の販売単価が増加し、販売額が増加
- 技術の確立・習得に向けた取組
 - ・ 栽培技術の導入事例収集及び技術交流による栽培技術の向上
 - ・ オホーツク有機農業セミナーの開催
講師（株）ローソン マーケティング本部 部長 稲葉潤一氏
（株）秋川牧園 直販部課長代理 尾兼直樹氏



オホーツク有機農業セミナー

一言アピール！

有機農業体験、各種講習会、セミナー等年間を通して開催しています。興味のある方は是非ともご参加ください。

問い合わせ先：

北海道農政事務所
生産経営産業部生産支援課
011-330-8807



網走川流域の会 馬鈴薯収穫体験

協議会の構成員

農業者8名、新規就農者1名、胆振農業改良普及センター2名、元地域おこし協力隊2名、豊浦町4名、その他2名 計19名

生産概要 (2019年3月)

- 取組面積
有機農業取組面積：0.4ha
うち有機JAS取得面積：0.0ha
- 栽培品目：イチゴ、ブロッコリー等
- 構成員の主な取引先：6箇所
(道の駅、札幌の自然食品スーパー等、個人販売)
- 有機農業者数：3名

成果 (2017年→2018年)

- ・有機農業の新規参入者の増加：1名(2017年)→3名(2018年)
- ・有機農業面積の拡大：0.1ha(2017年)→0.4ha(2018年)



講師及び店主との勉強会

取組のポイント (取組期間：2017年～)

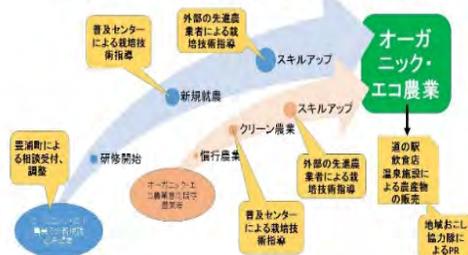
■ 有機農業への参入者の増加に向けた取組

- ・新規参入者の課題であった土づくりや販路について、現地指導及び講習会を年に4回実施することで新規参入者が2名定着・増加。また、既存農家と新規参入者のネットワーク構築につながった。
- ・イチゴ栽培についての栽培マニュアルを作成し、新規参入者等の生産性の向上につなげた。

■ 流通・販売の拡大に向けた取組

- ・実需者のニーズを把握するため、H29年12月に札幌エリア、H30年10月に帝国ホテルやプロップスジャパンを訪問し、有機農産物に対する意向調査を実施した。札幌エリアへのイチゴ等の販売に結びついた。

豊浦町オーガニック・エコ農産物推進協議会推進体制図



一言アピール!

味にこだわってつくった美味しいイチゴは札幌の自然食品店「まほろば」、神奈川県横浜市(株)プロップスジャパンで販売しております。ぜひご賞味ください!

問い合わせ先：
北海道農政事務所生産経営産業部
生産支援課
011-330-8807



JAみどりの有機農業推進協議会（宮城県大崎市、美里町、涌谷町）

協議会の構成員

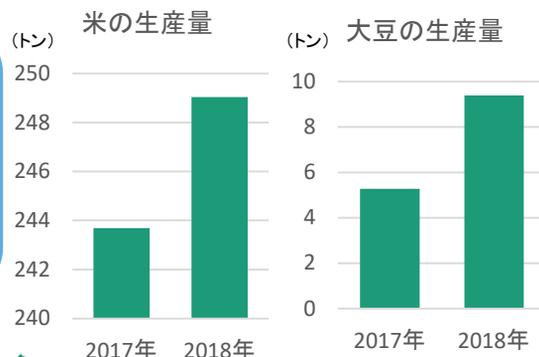
みどりの農業協同組合、(有)たじりエコベジタブル、宮城県美里農業改良普及センター、大崎市、美里町、涌谷町、JAみどりの稲作部会、JAみどりのパルシステム米栽培研究会、田尻産直委員会、田尻産直米部会、田尻地域有機農業研究会、松山酒米研究会、生産者

生産概要（2019年3月）

- 取組面積
有機農業取組面積：113.75ha
うち有機JAS取得面積：67.40ha
- 有機農業者数：23名
- 栽培品目：米・大豆
- 有機農産物の生産量（JA出荷分）：
米249.03トﾝ・大豆9.39トﾝ
- 構成員の主な取引先：県内外の3生協

成果（2017年→2018年）

- 有機農業面積の拡大：111.03ha → 113.75ha
- 有機農産物の生産量（JA出荷分）
米 243.69トﾝ → 249.03トﾝ
大豆 5.28トﾝ → 9.39トﾝ



取組のポイント（取組期間：2018年～）

■ 有機農業面積の拡大に向けた取組

米や大豆の有機栽培における、最大の課題である**雑草の抑草対策や資材（有機質肥料）**についての知識・技術を、**研修会などを通じて会員間で共有**することで、会員の技術力が向上し、有機栽培の面積及び生産量の増加に大きく貢献している。

■ 流通・販売の拡大に向けた取組

各種商談会への参加や生協等との交流において、有機農産物の付加価値を積極的にPRし、新たな販売先の開拓に努めている。



一言アピール！

「JAタウン」JAみどりのショップで有機米の販売を行っております。ぜひご賞味ください！
<https://www.ja-town.com/shop/f/f0/>

「有機稲作現地検討会」



有機栽培水稻の生育確認



流し込み追肥を紹介

オガニック農業推進協議会 (秋田県男鹿市、三種町)

協議会の構成員

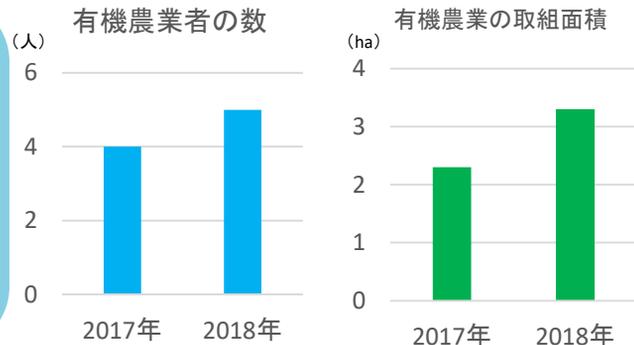
男鹿市を中心とした周辺市町村の農業者、Own GARment products、グルメストアフクシマ、こおひい工房珈音、ベジリンクあきた男鹿、男鹿市、JA秋田なまはげ、地産地消を進める会

生産概要 (2019年3月)

- 取組面積
有機農業取組面積：3.3ha
- 栽培品目：大豆、小麦、ソバ、クレソン等
- 有機農業者数：5名
- 構成員の主な取引先：スーパー、総菜店、自然食品店、直売所、飲食店、直接販売

成果 (2017年→2018年)

- 有機農業の新規参入者の増加：
4名 → 5名
- 有機農業の取組面積の拡大：
2.3ha → 3.3ha
うち有機大豆と有機小麦の作付面積：
0ha → 1ha



取組のポイント (取組期間：2018年～)

地元出身の30代・40代の起業家3名(服飾関係、精肉店、飲食店)で「オガニック地域構想」を立案し、その一環として協議会を設立(平成30年2月)。農家と連携しながら有機農業の普及を図っているユニークな取り組みである。

■ 地域の若い農家や移住者を巻き込む取組

堆肥づくりや有機農業の経営、さらに有機農業を地域活性化につなげるための研修会の開催等により、有機農業に対する関心を高め、新規参入者の増加に結びついた。

■ 地域の実需者との交流を通じた販路拡大

有機大豆等を加工した試作品や有機野菜を使ったランチの試食会を通じ、大豆や小麦の販路拡大につながった。



有機野菜を使ったランチ試食会(9月)

一言アピール!

オーガニック×男鹿に行く=オガニック(造語)

規模は小さいですが、それぞれの会員が多様な販路を開拓中!!



問い合わせ先：
東北農政局生産部生産技術環境課
022-221-6214

小川町有機農業推進協議会（埼玉県小川町）

協議会の構成員

小川町、小川町農産物生産直売組合、小川町農業委員会、NPO法人小川町風土活用センター、わだち会、JA埼玉中央、JA埼玉中央西部営農経済センター、小川町教育委員会、小川町認定農業者連絡協議会、小川町有機農業生産グループ、小川町転作集団促進連絡協議会、埼玉伝統工芸会館、埼玉県東松山農林振興センター

生産概要（2019年3月）

- 有機農業取組面積：54ha
- 有機農業者数：31名
- 栽培品目：水稻、麦、大豆等
- 有機農産物の生産量：64トン
- 構成員の主な取引先：4箇所
(生協、スーパー、農協直売所、道の駅等)

成果（2017年→2018年）

- ・有機農業面積の拡大：51.2ha（2017年）→54ha（2018年）
- ・有機農産物の生産量：65トン（2017年）→64トン（2018年）
- ・有機農産物の販売額：12,600万円（2017年）→12,300万円（2018年）



取組のポイント（取組期間：2018年～）

- 有機農産物の安定的な生産体制の構築に向けた取組
 - ・ 土壌の排水性・通気性が悪化しやすいほ場で、**耕盤破碎等の効果が期待できる緑肥（セスバニア）を活用した土壌改良を実証**し、その結果と今後の実証成果を踏まえ、小川町の土壌に適した緑肥の選定や適切な使用方法等の内容を充実させた栽培技術マニュアルを作成予定。
- 新規就農者の技術取得に向けた取組
 - ・ **研修生の受け入れ先となる指導農家の推薦**を通年で実施するとともに、**新規就農者等に向けた有機野菜の活用事例、農業史、6次化、法人経営等の勉強会（5回）**を行い、新規就農者が多面的な視点を養うことで、就農直後の経営体制の構築及び地域への定着に寄与。

一言アピール！

循環型有機農家のおいしい野菜！

小川町の有機農家は、地域の資源を活用した自然循環型の農業に取り組んでいます。心を込めてていねいに育てた季節の野菜を小川町で味わってください！



（セスバニアを活用した実証ほ場）

問い合わせ先：
関東農政局生産部生産技術環境課
048-740-0446



千葉県有機農業推進協議会（千葉県全域）

協議会の構成員

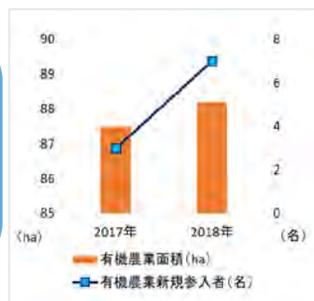
農事組合法人さんぶ野菜ネットワーク、株式会社シェアガーデン、株式会社オーガニックパートナーズ、株式会社自然農法販売協同機構、オーガニック・エコ農と食のネットワーク、株式会社福島屋、イーサポートリンク株式会社、一般社団法人フードトラストプロジェクト

生産概要（2019年3月）

- 取組面積
有機農業取組面積：88.2ha
うち有機JAS取得面積：44.7ha
- 有機農業者数：55名
- 栽培品目：にんじん、アスパラガス、トマト等
- 有機農産物の販売額：14,700万円
- 構成員の主な取引先：30箇所
(生協、スーパー、農協直売所 等)

成果（2017年→2018年）

- ・有機農業の新規参入者の増加：3名（2017年）→ 7名（2018年）
- ・有機農業面積の拡大：87.5ha（2017年）→ 88.2ha（2018年）
- ・有機農産物の販売額：
14,000万円（2017年）→14,700万円（2018年）



取組のポイント（取組期間：2017年～）

■有機農業の新規参入者の増加に向けた取組

- ・新規就農者及び転換者等を対象に、栽培技術指導及び農業経営、有機JAS認証に関する研修会を計5回実施するとともに、実証ほ場における有機肥料の比較・配合試験の実証結果に基づいて、栽培マニュアルを作成し、千葉県全域の有機農業者・新規参入者等に配布するなど、有機農業の担い手を育成。

■有機農産物の安定した供給体制の構築に向けた取組

- ・消費者、実需者、小売店等にアンケートを実施し、それぞれのニーズを把握するとともに、有機農産物の物流の共同化に向けた意見交換会を実施し、安定供給体制の構築に寄与。

一言アピール！

土づくりにこだわって、ふかふかな畑でつくった美味しい人参を福島屋で販売しております。ぜひご賞味ください！



（意見交換会の様子）

問い合わせ先：
関東農政局生産部生産技術環境課
048-740-0446

自然と共生する里づくり連絡協議会（千葉県いすみ市）

協議会の構成員

有機水稻(JAほか9農業団体)、有機野菜(直売所他5農業団体)、自然環境(環境NPO13団体)、地域経済(商工会ほか12団体)の4部会による協議会を構成。事務局はいすみ市農林課と水産商工課。

生産概要（2019年3月）

■取組面積

有機農業取組面積：17.41ha

うち有機JAS取得面積（水稻）：5.4ha

■有機農業者数：22名

■栽培品目：水稻、にんじん、食用なばな、こまつな等

■有機農産物の生産量：65トン
（うち水稻：60トン、うち野菜：5トン）

■構成員の主な取引先：4箇所
（学校給食、直売所、総合スーパー、中食等）

成果（2017年→2018年）

- ・有機農業の新規参入者の増加：4名 → 10名
- ・有機農業面積の拡大：14.11ha → 17.41ha
- ・有機農産物の販売額：1,600万円 → 2,000万円



取組のポイント（取組期間：2018年～）

■有機水稻の単収向上等に向けた取組（2019年～）

- ・平成29年度に、市内全13の市立小中学校で、全国初となる学校給食全量有機米使用を達成。
- ・令和元年度には水稻の有機栽培を行うほ場でミッドマウント式水田駆動除草機による発芽雑草対策やミネラル、アミノ酸肥料を用いた高品質多収穫栽培を実証しており、単収の向上とともに栽培面積の拡大及び農家数の増加を目指している。

■有機野菜の供給体制構築に向けた取組（2018年～）

- ・学校給食に有機野菜を求める声が高まる中、30年度にはにんじん、食用なばな、こまつな等品目別に実証ほ場を設置し、ロータリー一体型整形機を導入して「太陽熱養生処理技術」を実証。

また、各品目別の栽培に係る研修会等を実施するなど、地域における有機野菜の収量や品質、土づくりにかかる技術体系の確立に寄与。



一言アピール！

房総半島の米どころ「いすみ市」で作られている有機米『いすみっこ』は、子どもたちの未来を支えるおいしいお米です。給食の残食も減りました！



（有機栽培米を食べる児童）

問い合わせ先：
関東農政局生産部生産技術環境課
048-740-0446

湘南オーガニック協議会 (神奈川県平塚市)

協議会の構成員

株式会社都実業、有限会社サンシン、農業者、株式会社たんじゅん野菜いかす、NPO法人湘南食育ラボ、株式会社いかす

生産概要 (2019年3月)

- 取組面積
有機農業取組面積：5 ha
うち有機JAS取得面積：1.2ha
- 栽培品目：たまねぎ、にんじん、ばれいしょ等
- 構成員の主な取引先：約10箇所
(スーパー、レストラン 等)
- 有機農業者数：7名

成果 (2017年→2018年)

- ・ 有機農業の新規参入者の増加：1名 (2017年) → 3名 (2018年)
- ・ 有機農業面積の拡大：4 ha (2017年) → 5 ha (2018年)



取組のポイント (取組期間：2017年～)

- 有機農業の普及・拡大に向けた取組
 - ・ 作業の有効性等の把握を目的に、**大学と連携して、ほ場間やほ場内での土壌分析、収量調査及び栄養分析等の比較調査**を実施。今後は、経年で当該調査を実施し「技術の汎用化」を実現し、有機農業の普及・拡大を目指す。
- 有機農業者の栽培技術・経営力向上等に向けた取組
 - ・ 有機農業関係者等を対象に、**土壌診断や農業経営における考え方、パッキング作業、農作業時の体(からだ)の使い方**等の幅広い分野における**講習会**を年6回実施。有機農業者の栽培技術・経営力向上に寄与した。



一言アピール!

たまねぎは初年度単収3.3トン、2年目は単収6トン。生産量も確保しつつ、なによりも美味しい野菜が広まっていくことを願っています。

問い合わせ先：
関東農政局生産部生産技術環境課
048-740-0446



小田原有機の里づくり協議会（神奈川県小田原市）

協議会の構成員

小田原市、小田原有機農法研究会、農事組合法人小田原産直組合、株式会社報徳農場、NPO法人あしがら農の会、一般社団法人MOA自然農法文化事業団、NPO法人小田原食とみどり、小田原家庭菜園研究会

生産概要（2019年3月）

■取組面積

有機農業取組面積：110.89ha

うち有機JAS取得面積：7.2ha

■有機農業者数：147名

■栽培品目：キウイフルーツ、水稻、野菜等

■構成員の主な取引先：5箇所

（生協、スーパー、食品宅配等）

成果（2017年→2018年）

・有機農業面積の拡大：108.19ha（2017年）→110.89ha（2018年）

・有機農業者の増加：147名（2017年）→147名（2018年）



取組のポイント（取組期間：2018年～）

■有機農業者の育成及び技術の向上に向けた取組

- ・ 緑肥の活用による収量変化の実証結果や有機稲作における月ごとの作業方法等を盛り込んだ**栽培マニュアル（有機の稲作り）**を作成し、有機農業者や新規就農者に配布して農業者の技術を向上させるとともに、有機栽培における**作物ごとの栽培管理等に係る実地指導や有機JAS認証に関する勉強会**、有機農業を活用した地域活性化の取組事例の紹介等を通して有機農業者を育成。

■流通・販売の拡大に向けた取組

- ・ 実需者と生産者を交えた意見交換会や小売業者からの聞き取り、学校給食における有機米利用の事例調査を通して、実需者等の意向や有機農作物の需要及び取り扱い状況等を把握。また、実証ほ場で栽培した有機の麦や大豆、地元で採れた有機野菜等を使った加工食品を試作。
- ・ 小田原市内外から約6万人の来場者がある「小田原市農業まつり」において、来場者に試作品の提供及びアンケート調査を行い好評を得た。今後も加工食品のメニュー開発や販売先の検討を行い、商品化を目指す。



（小田原市農業まつりの様子）



一言アピール！

大都市圏から近く、自然環境にも恵まれた中で取り組んでいます！

問い合わせ先：
関東農政局生産部生産技術環境課
048-740-0446

とやま有機・エコ農業パワーアップ協議会（富山県）

協議会の構成員

富山県農業協同組合中央会、全農とやま、富山県農林水産部、富山市、氷見市、滑川市、南砺市、入善町、朝日町、（公社）富山県農林水産公社、富山中央青果株式会社、丸果株式会社、MOA自然農法富山県連合会、越中土徳の会、氷見有機の里づくり協議会、富山れんげの会、富山県有機農業研究会、（有）土遊野、ログログファーム

生産概要（2017年度）

■取組面積

有機農業取組面積：207ha

うち有機JAS取得面積：126ha

■有機農業者数：71名

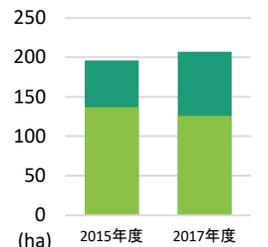
■栽培品目：水稲、大豆、そば、ハトムギ

野菜（サトイモ、キャベツ他）等

成果（2015年度→2017年度）

- ・有機農業面積の拡大：196ha（2015年度）→207ha（2017年度）
（うち有機JAS取得面積） 137ha（2015年度） 126ha（2017年度）

有機農業面積の推移



取組のポイント（取組期間：2016年度～）

県段階の「とやま有機・エコ農業パワーアップ協議会」と、地域段階の有機農業団体（5団体）が連携しながら、有機農産物及びエコ農産物の生産拡大に向けた取組を実施

■有機農業面積等の増加や栽培技術等の習得に向けた取組

- ・穴掘り機を使用した土壌改善効果の導入実証。
- ・BLOF理論による有機栽培技術研修会を開催。



栽培研修会（BLOF理論）

■消費者との交流促進の取組

- ・消費者に有機農業やエコ農業のことを知ってもらい、有機農産物等の価値を理解してもらうため、**県内のスーパーと連携し、有機栽培ほ場での生き物調査や収穫体験等の体験型イベント**を開催。
- ・県民向けの**食イベントに特設ブースを設置し**、生産者自らが有機農産物の生産活動をPR。



生き物調査

■産地販売力・育成力を強化するための取組

- ・首都圏の実需者を対象にニーズの高い品目や価格等に関する情報収集。
- ・首都圏のアドバイザーを産地に招き、**県外出荷や加工販売のポイント**について産地指導を実施。

一言アピール！

協議会活動を通じて、富山県の有機農業・エコ農業を推進します。

問い合わせ先：
北陸農政局生産部
生産技術環境課
076-232-4893



知多の恵み協議会（愛知県武豊町、南知多町）

協議会の構成員

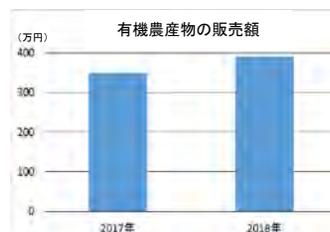
太田農園、黒田農園、杉浦農園、つなぐ農園、ぶっちゃん農園、大岩農園、chiiai farm、コープ有機

生産概要（2019年3月）

- 取組面積
有機農業取組面積：5.3ha
- 有機農業者数：7名
- 栽培品目：サニーレタス、大根、にんじん、里芋
- 有機農産物の生産量：約10トン（2018年合計）
- 構成員の主な取引先：コープ有機等

成果（2017年→2018年）

- ・有機農業の新規参入者の増加：5名（2017年）→7名（2018年）
- ・有機農業面積の拡大：4.3ha（2017年）→5.3ha（2018年）
- ・有機農産物の販売額：350万円（2017年）→390万円（2018年）



取組のポイント（取組期間：2018年～）

■BLOF理論に基づいた栽培研修会の開催

- ・新規参入者の課題であった**田畑転換をBLOF理論に基づいて実施する研修**を年3回開催し、新規就農者が2名定着。
- ・**土壌分析結果から施肥設計**を行い、植物生理に基づいた栽培方法を学ぶことにより、新規参入者だけではなく、従来からの有機農業実践者の生産性の向上につなげた。

■地域資材の有効活用

- ・地域の課題となっている放置竹林問題に対し、**竹林整備団体「モリビトの会」と連携し、土壌改良資材としてのポーラス炭活用**を開始。



栽培研修会の様子

一言アピール！

知多半島を有機農業の一大産地にするため、日々頑張っています！！



京都オーガニックアクション協議会（京都府およびその周辺）

協議会の構成員

京都府およびその周辺の生産者、流通業者、飲食店、学術関係者ら

約**80**軒 うち生産者55軒、実需者約20軒

（369商店、坂ノ途中、アスカ有機農園、ワンドロップ、へんこ、かみむら農園、中川自然農園、音吹畑、梅本自然農園ほか）



生産概要（2018年度）

- 有機農業取組面積：48.6ha（うち有機JAS取得面積：5.3 ha）
- 有機農業者数：34名
- 栽培品目：万願寺とうがらし、葉物類、米など

成果（2017年度-2018年度）

- ・本事業取組生産者数： **13**名 → **34**名（162%増）
- ・新規参入者 **4**名を確保
- ・有機栽培取組面積の増加： **23** ha → **48.6** ha（113%増）

取組のポイント（取組期間：2018年度）

- ・共同物流便運行と農産物生産販売計画・取引データの共有
- ・生産者／実需者の意見交換会および相互訪問
- ・地域の生産者・実需者を広く巻き込む作付検討会の開催
- ・生産者対象の生産技術・経営技術に関わる研修会実施

京都周辺の比較的中小規模の生産者・実需者らが集まり、物流手段のシェアを中心テーマに据えて、生産・販売・物流に関する情報を共有。周年供給体制構築に向けた「作付検討会」を**2**回開催。

意見交換会、相互見学会、意向調査などを頻繁に実施（**30**回以上）地域内外における新たな取引につなげている。

生産者の生産技術や経営スキル向上を図る勉強会を**5**回開催



一言アピール！

地域内流通を支えるコミュニティづくり

持続可能な社会を目指す生産者、流通業者らが集まって知恵を出し合いながら、新しい流通の仕組みづくりに取り組んでいます！ 全国各地の皆さんも連携しませんか？

問い合わせ先：
近畿農政局生産部生産技術環境課
075-414-9722

丹波市有機の里づくり推進協議会（兵庫県丹波市）

協議会の構成員

丹波市有機農業研究会、丹波ひかみ農業協同組合、丹波市役所
【アドバイザー】(株)ジャパンバイオフィーム代表 小祝 政明

生産概要（2018年度）

- 取組面積
有機農業取組面積：145.62ha
うち有機JAS取組面積：50.64ha
- 有機農業者数：181名
- 栽培品目：水稻、黒豆、小豆等
- 有機農産物の生産量：457トン
- 構成員の主な取引先：20箇所以上
(例：大手米穀商社 生協 ネット通販)

成果（2017年度→2018年度）

- ・ 有機農業者数の増加：60戸 → 67戸
- ・ 有機農業面積の拡大：129.73ha → 145.62ha
- ・ 有機農産物の販売額：1億3800万円 → 1億4700万円



取組のポイント（取組期間：2018年度）

■ 付加価値をつけた有機農産物の普及

有機農産物の普及において、「農薬を使っていないから見た目が悪くてもOK」といった概念を地域内で広める為、高品質でかつ高栄養価の有機野菜づくりにつとめて、流通においてお客さまから指名いただけるような栽培を目指す。**定期的に行う栽培勉強会**において**モデル圃場を設け、実地研修・共同勉強会**を開催する事で、産地としての農作物の品質レベルの向上を図っている。

■ 流通・販売の拡大に向けた取組

高品質で栄養価の高い農作物を求める実需者のニーズを把握するため、2月におこなわれた**アグリフード大阪に出展し、新規顧客獲得**につなげた。



一言アピール！

定期的な皆で圃場を回り、品質向上の為に勉強しています！丹波の栄養価の高い有機農産物是非ご賞味ください

問い合わせ先：
近畿農政局生産部生産技術環境課
075-414-9722

神戸オーガニック・エコ農業推進協議会（兵庫県）

協議会の構成員

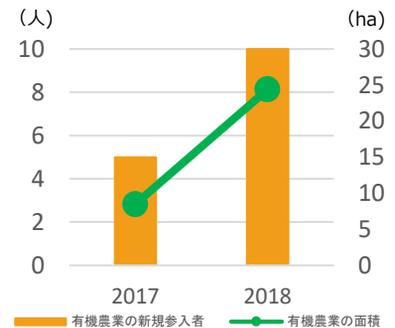
- 生産者：
 - <神戸市> げんきゆうき、ココハウス、小池農園こめハウス、炭育ち池上農園、ほんまもんや 渡邊農園
 - <三田市> 神戸三田ジャンプオーガニック
 - <養父市> 宝樹園
 - <朝来市> 株式会社村上ファーム
- 実需者：生活協同組合コープ自然派兵庫、株式会社コープ有機
- 有機JAS認証団体：一般社団法人オーガニック認証センター

生産概要（2018年度）

- 取組面積
 - 有機農業取組面積 : 24.39ha
 - うち有機JAS取組面積 : 8.29ha
- 有機農業者数 : 10名
- 構成員の主な取引先 : 3箇所
(生協、直売所、レストラン)
- 栽培品目 : 水稲、人参、ほうれん草、リーフレタス、玉ねぎ、かぼちゃ、ズッキーニ、にんにく、小松菜、水菜、菊菜、パクチー、冬瓜、生ピーナッツ、しそ、コリアンダー、なす、かぶ、オクラ、バジル、ミニトマト、トマト、大豆、レタス、ピーマン、ベビーリーフ、その他園芸作物

成果（2017年度→2018年度）

- ・有機農業の新規参入者の増加 : 5名 → 10名
- ・有機農業面積の拡大 : 8.48ha → 24.39ha



取組のポイント（取組期間：2018年度）

- 有機農業への参入者の増加に向けた取組
 - BLOF理論学習会への参加を広く兵庫県下に呼び掛けて新たな構成員を獲得。2018年7月、9月、11月、2019年1月 合計4回開催。
- 実証圃場まとめ
 - 実証圃場で小松菜、ほうれん草、レタスの3品目をBLOF理論に基づいて栽培を行った。
→すべての実証圃場で反収増加(小松菜137%、ほうれん草115%、レタス122%)
 - レタスの圃場については、太陽熱養生処理により雑草が抑制され作業軽減につながった。
- 消費者との意見交換
 - 2019年1月18日に開催された第4回コープ自然派生産者&消費者討論会に生産者が多数参加し消費者と意見交換を行った。
- 技術指導の実施（BLOF理論学習会：講師 小祝政明氏）

主に以下の点について学習

- ・太陽熱養生処理による土作り
- ・太陽熱養生処理ができない場合の代替方法
- ・秋処理、トロトロ層の形成、水田中微生物の活用
- ・アミノ酸肥料を効率よく吸収させる方法 など

那賀地方有機農業推進協議会（和歌山県岩出市、紀の川市）

協議会の構成員

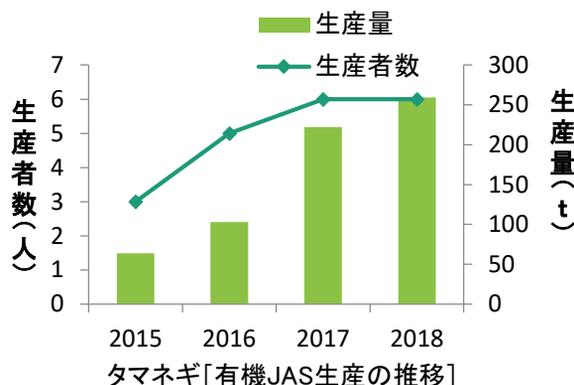
（株）ビオランド紀ノ川、農業生産法人バイオ・ランド、紀州やさい、紀州農レンジャー、紀の川市環境保全型農業グループ、和歌山有機農業認証協会、和歌山県有機農業生産者懇話会、紀ノ川農業協同組合、紀の里農業協同組合、紀の川市、岩出市、和歌山県那賀振興局農業水産振興課

生産概要（2018年度）

- 有機農業取組面積：18.3ha
 - うち有機JAS取組面積：15.11ha
- 有機農業者数：31名
- 栽培品目：タマネギ、水稲、キウイ等
- 有機農産物(JAS)の生産量：503.2t
- 構成員の主な取引先：10箇所
卸業者が中心

成果（2015年度→2018年度）

- ・有機農業実践者(JAS)の増加
26名 → 31名
- ・有機農業面積の拡大
13ha → 18.3ha
- ・有機農産物(JAS)の生産量
265t → 503.2t



取組のポイント

- 有機農業参入者の増加に向けた取組
 - ・ **新規参入者向け相談窓口の設置**（新規就農や営農に関する相談）や**栽培技術、経営等に関する研修会を開催**することにより、新規参入者及び導入面積の拡大に繋がった。
- 技術確立・習得に向けた取組
 - ・ 新技術の導入に向けた**技術実証圃**を設け、**協議会で情報を共有**することで、病害虫防除対策や生産性の向上が図られ、また、**地域の栽培技術導入事例を収集した有機農業栽培マニュアルの追補版を作成**したことで、導入品目の拡大に繋がった。
- 安定供給体制構築のための取組
 - ・ 地元小学校等での有機農業の出前授業と農作業体験による**食農教育活動**により、有機農業の理解を深める活動を継続的に実施した。
 - ・ **県外実需者への調査訪問**を行い、実需サイドの要望を反映した供給体制づくりに努めた。



研修会の開催



栽培マニュアルとPRパンフ



実需者への訪問

一言アピール！

農業を通じてみんなを元気に、環境と人にやさしい農業に取り組んでいます。

問い合わせ先：
近畿農政局生産部生産技術環境課
075-414-9722



安来農林振興協議会やすぎ有機農業推進プロジェクト

(島根県安来市)

協議会の構成員

- ・赤江オーガニックファーム（生産者）・島根県東部農林振興センター松江普及部安来支所
- ・島根県農業協同組合やすぎ地区本部生産流通課・安来市役所農林振興課

生産概要（2019年3月）

- 取組面積
有機農業取組面積：1.68ha
うち有機JAS取得面積：1.25ha
- 栽培品目：小松菜、水菜、ホウレン草等
- 有機農業者数：4名
- 構成員の主な取引先：7社

成果（2017年→2018年）

- ・協議会参加農家：5名（2017年）→6名（2018年）
- ・研修生受入：2名（2017年）→3名（2018年）
- ・2018年度中に1名新規研修生受け入れ開始

取組のポイント

■有機農業への参入者の増加に向けた取組

担い手確保に力を入れており、各地の**新規就農募集セミナーへ出展**して有機農業での就農を希望する研修生を受け入れています。新規就農者の受け入れに関しては、**師匠・集落・農地・施設・住居**などの就農する上で必要となる要素を一体的に確保する市の「**就農・定住パッケージ**」を活用し、研修～就農後までサポートしています。



一言アピール！

農家と関係機関が一体となってがんばっています！！

小松島市生物多様性農業推進協議会 (徳島県小松島市)

協議会の構成員

生産者、実需者、徳島県、小松島市ほか

生産概要 (2018年度)

■ 取組面積

有機農業取組面積：36.35ha
うち有機JAS取得面積：0.96ha

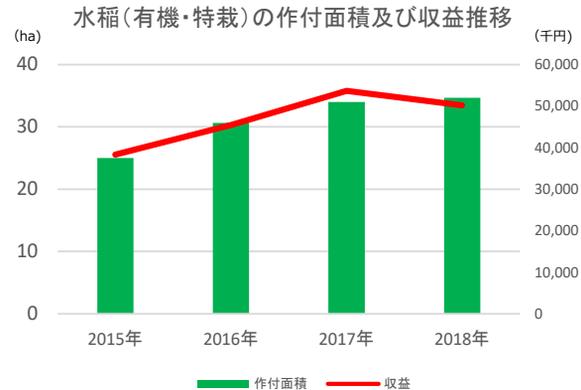
■ 有機農業者数：34名

■ 栽培品目：水稻、タケノコ等

■ 構成員の主な取引先：生協、スーパー、産直市等

成果 (2015年→2018年)

- ・ 水稻 (有機・特裁) 取組者の増加
31名 (2015年) → 32名 (2018年)
- ・ 水稻 (有機・特裁) 作付面積の拡大
25.00ha (2015年) → 34.67ha (2018年)
- ・ 水稻 (有機・特裁) 売上額の増加
38,306千円 (2015年) → 50,168千円 (2018年)



取組のポイント

- 有機農業への参入者の増加に向けた取組
 - ・ とくしま有機農業サポートセンターと共同した、**新規参入者向けの相談窓口の設置。**
- 技術の確立・習得に向けた取組
 - ・ **BLOF理論 (生態系調和型農業理論) の講習会を、**2017年は6回、2018年は5回実施し、生産者の技術向上及び取組面積の増加につなげることができた。
- 消費者の理解増進に向けた取組
 - ・ **オーガニックエコフェスタ開催**による、技術者間交流と消費者へのPR活動を実施。
 - ・ 協議会による認証米を、2017年は9回、2018年は8回**イベント等でPRし、**消費者の理解増進に努めた。



▲ 栽培技術講習会の様子



一言アピール!

本協議会では、生物多様性の視点を生産環境に取り入れる農業を志向しています。

問い合わせ先：中国四国農政局生産技術環境課
086-224-4511

南島原市有機農業推進協議会（長崎県南島原市）

協議会の構成員

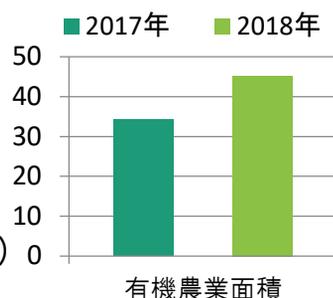
長崎有機農業研究会、（農）ながさき南部生産組合、（農）供給センター長崎、長崎県島原振興局農林水産部、生活協同組合ララコープ、南島原市農林課

生産概要（2018年）

- 取組面積
有機農業取組面積：45ha
うち有機JAS取得面積：11ha
- 有機農業者数：57名
- 栽培品目：ばれいしょ、たまねぎ等
- 有機農産物の生産量：1011トン
- 構成員の主な取引先：生協、宅配サービス

成果（2017年→2018年）

- ・ 有機農業の農業者数：46名（2017年）→57名（2018年）
- ・ 有機農業面積の拡大：34.3ha（2017年）→45.2ha（2018年）
- ・ 有機農業面積のうち、野菜面積の拡大：
22ha（2017年）→30.8ha（2018年）
- ・ 有機農産物の販売額：
20,130万円（2017年）→21,434万円（2018年）



取組のポイント（取組期間：2018年～）

■ 供給力強化の取組

- ・ 実証試験の実施、有機ほ場の土壌調査及び報告会による技術の確立
- ・ 栽培技術の習得及び技能向上を目的とした講習会の実施

■ 有機農業者育成力強化の取組

- ・ 有機農業先進地へ視察及び情報交換
- ・ 有機農業実践講座の開催による参入希望者及び慣行農業者に対する技術の普及
- ・ セミナー、研修会への参加による有機農業に関する情報収集及び他地域との情報交換



一言アピール！

肥沃な大地で育てられた美味しい野菜をぜひご堪能ください！

問い合わせ先：
九州農政局生産部生産技術環境課
096-300-6272

くまもと有機農業推進協議会 (熊本県)

協議会の構成員

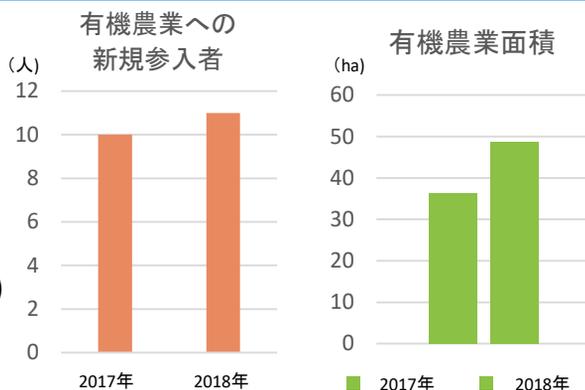
熊本県有機農業研究会 人吉有機農業推進協議会 宇城有機農業プロデュース 百草園
(株)ドリームグループ九州産直クラブ人吉市
アースデイマーケット 宇城市 熊本県 JA中央会

生産概要 (2017年4月)

- 取組面積
有機農業取組面積：36.4ha
うち有機JAS取得面積：20ha
- 有機農業者数：33名
- 栽培品目：トマト、しょうが等
- 構成員の主な取引先：農協 生協 ドリームグループ

成果 (2017年→2018年)

- ・ 有機農業への新規参入者の増加：
10名 (2017年) → 11名 (2018年)
- ・ 有機農業面積の拡大：
36.4ha (2017年) → 48.65ha (2018年)



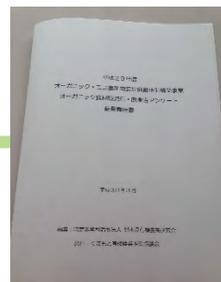
取組のポイント (取組期間：2016年～)

■ 有機農業への参入者の増加に向けた取組

- ・ 新規参入者の課題であった**有機農業の技術を追跡調査**してきた。それを4年間実施することで新規参入者が2名定着・増加。調査した**野菜やお米の栽培マニュアル**を作成し、新規参入者だけでなく、従来からの有機農業実践者の生産性の向上につなげた。

■ 流通・販売の拡大に向けた取組

- ・ 実需者のニーズを把握するため、2018年において、**レストランや販売店のオーガニックへの意識と実態調査**を実施した。



一言アピール!

熊本は有機農業の盛んな地域です。宇城organicプロデュースのトマトは美味しいですよ。

問い合わせ先：
九州農政局生産部生産技術環境課
096-300-6272



宮崎県有機農業連絡協議会（宮崎県）

協議会の構成員

宮崎県 綾町 高鍋町 宮崎県経済農業協同組合連合会
(一社) 宮崎県農業法人経営者協会 生産者

生産概要（2019年3月）

■取組面積

有機農業取組面積：20.85ha

うち有機JAS取得面積：13.55ha

■有機農業者数：5名

■栽培品目：柚子、とうがらし、茶等



柚子 とうがらし 茶

成果（2018年→2019年）

■有機農業の取組面積の増加（ゆず・とうがらし）
： 0ha（2018年）→7.3ha（2019年）

■有機農業の取組農家数
： 4名（2018年）→5名（2019年）



取組のポイント（取組期間：2018年～）

- ・地域の生産者等を対象に有機JAS認証制度や有機栽培方法について計2回（1回目12月44名、2回目3月）**研修会を開催**
- ・転換者等2名を対象に、**有機栽培技術実証展示ほを設置**。
栽培指導を8月～3月の間実施中。品目：ゆず、とうがらし、茶
- ・県内農業者等800名以上を対象に有機JAS認証取得意向アンケートを実施し、有機JAS推進対象者の掘り起こしを図った。



一言アピール！

**宮崎県産の有機農産物を
よろしくお願ひします。**

協議会の構成員

鹿児島市、始良市、南さつま市、NPO法人鹿児島県有機農業協会、生活協同組合コープかごしま、(株)エム・オー・エー商事九州販売、(有)かごしま有機生産組合、あいら有機部会

生産概要 (2019年3月)

- 取組面積
有機農業取組面積：85ha
うち有機JAS取得面積：62ha
- 有機農業者数：94名
- 栽培品目：水稲、玉ねぎ、おくら等
- 有機農産物の生産量：529トン
うち有機JAS認証農産物：339トン
- 構成員の主な取引先：260箇所
(生協、スーパー、小売店等)

成果 (2014年→2018年)

- ・ 有機農業の新規参入者の増加：45名 (2018年)
- ・ 有機農業面積の拡大：71.71ha (2017年) → 84.86ha (2018年)
うち有機JAS取得面積 41.20ha(2014年) → 62.12ha(2018年)
- ・ 有機農産物の取引先：152箇所 (2014年) → 260箇所 (2018年)
- ・ 有機農産物の生産量：485トン (2014年) → 529トン (2018年)
うち有機JAS認証農産物：302トン (2014年) → 339トン (2018年)

有機農業者・有機面積の拡大



取組のポイント (取組期間：2015年～)

■ 栽培技術・経営力向上等に向けた取組

- ・ **有機農業チャレンジフォーラム** (「いかにして高品質で高利益な農産物を作るか」有機農業の土づくりから管理までの一貫指導の研修会 及び「有機農業フォーラム」)を**2回実施**し、新規参入者だけでなく、従来からの有機農業実践者の生産性・経営力の向上につなげた。

■ 流通・販売の拡大に向けた取組

- ・ 実需者のニーズを把握するため、東京・大阪において、**7月と10月に販売動向調査を実施**し、有機農産物の販売に結びついた。



一言アピール!

地球にやさしい、持続可能な有機農産物、有機加工品を現在全国各地の生協やスーパー等に提供しております。今後も有機農産物等を安定的に皆様にお届けできるよう努力いたしますので、応援ください。